

新島若郷方言における親族呼称語彙の研究（1）*

The Study of Kinship Terms of Address
in Wakagô Dialect, Nijima Island（1）

第一部国語科 杉 村 孝 夫
(1976年9月10日 受理)

*本研究の概要は日本方言研究会第19回研究発表会（1974年11月15日）において口頭発表をおこなった。

はじめに

地域社会を形成する下位単位としての家族（同居集団）を対象としてその構成員相互の呼称について記述と考察をおこなう。ある地域において同一の文化・社会諸制度のもとにひとまとまりをなす人間集団を地域社会とすれば、親族的契機（血縁と婚姻）によって結びつけられ、同居し、同一の生活習慣のもとにひとまとまりをなしている家族もまた小さな社会的単位であるといえよう。家族の内部には親子・夫婦・兄弟姉妹など様々な関係が存するが、それら諸関係と呼称がどのように関連しているのか、いいかえれば言語形式としての呼称に実族内部の人間関係がどのように反映しているかを次の3点を柱として考察していく。①呼称形式は②呼称者と③被呼称者の分布からカテゴリー（意味）が決定される。さらに、カテゴリーを形成する個々の形式は呼称者の年齢・教育・性、被呼称者の社会的地位などによって細かく意味づけられている。

1. 若郷の概観

新島は伊豆諸島のほぼ中心の位置にあり、東京からは南方約157kmである。若郷は新島の表玄関黒根港から約10km、島の北西の隅にある。世帯数は105、人口は464人（昭和49年3月）である。漁業を主とした生計が営まれているが夏になると昭和42年頃からおこなわれはじめた民宿が栄え、現在では村の人口の倍近い外来者を収容する施設ができています。村落内には小学校が1校あり、昭和49年度の生徒数は43人であった。中学校は昭和37年本村に統合されたので子供達は中学校に入学するとスクールバスで本村まで通うことになる（新島一村勢要覧昭和49年版一参照）。

2. 資 料

本稿の資料収集のための臨地調査は、昭和48年7月9日～11日、昭和49年7月16日～19日の2回にわたり都立大学中本正智先生のゼミの調査団に加わっておこなった。

参考資料としては次のものがある。

- ① 『伊豆諸島文化財総合調査報告』第二分冊、東京都教育委員会、1959
- ② 『新島自治慣行調査報告書』東京都総務局総務部企画課、1963
- ③ 『伊豆諸島方言の研究』平山輝男編、1965

また、前記調査団のメンバーによる若郷方言についての記述もある。

- ④ 「伊豆新島若郷方言の音韻」木野田れい子、（人文学報104）1975 a

- ⑤ 「伊豆新島若郷方言のアクセント変化」木野田れい子, (音声学会会報147) 1975 b
- ⑥ 「伊豆新島若郷方言における動詞活用形のアクセント」辰浜マリ子, (都大論究12) 1976
- 調査方法はイ. 家族構成 (ひとまず同一敷地内に同居している人々について) を聞く, ロ. 家族構成員相互の呼称を聞く, のイ, ロについてそれぞれ A. 現在, B. 話者が結婚する前 (「過去と」呼ぶ) の2代にわたっておこなった。Bによって話者が10歳代後半から20歳代にかけての呼称の実態をさぐることができる。これらは話者の年齢によって明治末期から昭和30年代までの呼称の実態を示している。こうして得られた資料は時間的にある程度の幅をもっている。特にBについては10年あるいはそれ以上の期間にわたり使用された呼称もありうる。また, 現実にある家族構成員が他の家族構成員に呼びかけた形式ではない資料が含まれている可能性もある。調査の初期においては学校教育などにより「そう言うべきであるとされている」呼称形式を聞くことがあった。特にBについては数十年前の記憶を呼び起こさせるという調査方法のため, 一般化された資料を得ていることも予想される。しかし, 一方あくまでも具体的に何年かを共にすごした家族の呼称についての記憶であるからかなりの信頼性もあると考えられる。

3. 呼称の種類と形式

まず, 若郷においておこなわれる呼称の種類と形式をあげる。

① 「會祖父」概念をあらわす形式

[ɪ̃k̃jod̃z̃i:]

② 「會祖母」概念をあらわす形式

[ɪ̃k̃job̃a:], [t̃fo:d̃emba:] (「會祖母」概念をあらわす言及形式としては [ʃanagomba:] がある)

③ 「祖父」概念をあらわす形式

[od̃z̃i:sã], [d̃z̃i:sã], [od̃z̃i:t̃sã], [d̃z̃i:t̃sã], [ind̃z̃i:] ~ [n̄d̃z̃i:], [d̃z̃i:] ([ō:jand̃z̃i:])

〔補説〕 「ンジー」は言及および呼びかけ形式として屋号と組み合わせて他家の隠居世代にあたる家族構成員を指し示すためにも用いられる。

言及形式

サキンジー (作右衛門ンジー)

カクンジー (角左衛門ンジー)

イチデンジー (市左衛門ンジー)

呼びかけ形式

イーチンジー (市左衛門ンジー)

「オジーサン」という呼称形式について 話者は次のように説明した (以下話者の説明は『 』に入れて示す)。『終戦後「オジーサン」が用いられるようになった』つまり、それ以前はインジーであった (14A家の話者)。『女の子だから「オジーサン」とは呼ばずに「インジー」と呼んだ』 (4B')。

④ 「祖母」概念をあらわす形式

[ob̃a:sã], [b̃a:sã], [ob̃a:t̃sã], [b̃a:t̃sã], [m̃b̃a:] ~ [m̄b̃a:], [b̃a:], [ō:jamba:]

〔補説〕 [オーバーサン], [ンバー] は言及および呼びかけ形式として屋号と組み合わせ

て他家の隠居世代にあたる家族構成員を指し示すためにも用いられる。

言及形式

ヘーベーオバーサン(平兵衛オバーサン)

エンバー(弥右衛門ンバー)

サキンバー(作右衛門ンバー)

カクンバー(角左衛門ンバー)

呼びかけ形式

イーチンバー(市左衛門ンバー)

⑤ 「父」概念をあらわす形式

[oto:saŋ], [oto:ɽaŋ], [to:ɽaŋ], [oto:tsaŋ], [to:tsaŋ], [papa], [o:ad̥ʒi]

〔補説〕『「トーチャン」という呼び方は大正末から用いられるようになった』(15B)。

「トッチャン」について、長男が父を、『小さい頃は「トッチャン」と呼んだが、学校に通うようになってからは「オトーサン」と呼ぶようになった』(4B)。

⑥ 「母」概念をあらわす形式

[oka:saŋ], [oka:ɽaŋ], [ka:ɽaŋ], [okka:saŋ], [okka:], [mma] ~ [m̄ma], [tʃitʃi], [mama], [orukuro]

〔補説〕長男が母を、『小さい頃は「ンマ」と呼んだが、学校に通うようになってからは「オカーサン」と呼ぶようになった』(4B)。

子が母を『小さい頃は「ンマ」と呼んだ。今でも昔世話になった人を「ンマ」と呼ぶ。おっぱいを「ンマンマ」と飲むから』(1B)。最後の説明は話者による「ンマ」の語源解釈である。

「オッカサン」、「オッカー」は東京と行き来のあった家族でのみ用いられている(1B, 3B)。

⑦ 「戸主世代」概念をあらわす形式

[tto:] , [oto:saŋ]

〔補説〕「トター」は他家の戸主にあたる家族構成員に対する言及形式として屋号と組み合わせる次のように用いられる。

サキッター(作右衛門トター)

カクッター(角右衛門トター)

キューゴロッター(久五郎トター)

「オトーサン」も現在、姓と組み合わせる他家の戸主にあたる家族構成員に対する言及形式としても用いられる。

キタムラノオトーサン(北村のオトーサン)

ミヤガワゲノオトーサン(宮川の家のおトーサン)

母が長男を『長男に子どもができたので「トター」と呼んだ』(17B)。

⑧ 「主婦世代」概念をあらわす形式

[kka:], [ka:ɽaŋ]

〔補説〕『主婦を呼ぶときに用いる言葉』(12B)。

『子供がひとりかふたりある母を呼ぶ言葉』(16B)。

長男が2女を、『2女は他家へ嫁しているので嫁した先の「屋号の略称+ッカー」

（サキッカー＜作右衛門ッカー）という形式で呼んだ』（17B）。

長女を、『嫁して後は嫁した先の家の「屋号+の家+カーチャン」（トクゼーニーノカーチャン＜徳左衛門の家の～）という形式で呼んだ』（10B）。

なお、「ッカー」は他家の主婦にあたる家族構成員に対する言及および呼びかけ形式として屋号と組み合わせて次のように用いられる。

言及形式

サキッカー（作右衛門ッカー）

カクッカー（角左衛門ッカー）

イチデーッカー（市左衛門ッカー）

呼びかけ形式

カマッカー（鎌倉ッカー）

⑨ 「成年男子」概念をあらわす形式

[a^hni:]

〔補説〕『父は長男が結婚してから「アニー」と呼びはじめた』。調査時、長男は2子（S.46年、S.48年生）の父親となっており、「トーチャン」とも呼ばれている（16A）。

『母は長男（2子の父親）を、家族内では「名前の略称+チャン」（ヨッチャン＜義弘）で呼ぶが、他人と話すときは「アニー」と言及する』（16A）。

父が婿をかつては「名前の略称+ボー」（カツボー＜勝彦）で呼んでいたが、子が3人あった調査時は「アニー」と呼んでいた（17A）。

父が長男を『子供のときは名前の呼びすて形式で呼んだが、嫁をもらった頃には「アニー」と呼んだ』（3B）。

長男は、家族内では年長者からは名前の略称（ヒョー＜兵一）で、年下の兄弟からは「アンキ」と呼ばれたが、他家の人からは「屋号+ノ+アニー」（ヒョーエモンノアニー＜兵右衛門の～）と呼ばれた（10B）。

長男は成人してから祖父をのぞく家族の年長者から「アニー」と呼ばれた。『成年男子を「アニー」と呼ぶ』（10B）。

『嫁をもらった人、子供がひとりかふたりできるまでくらいの男子、一人前になった男子を「アニー」と呼ぶ。昔は15～16歳で今の社会人の取扱いを受けた。その後は徴兵検査をすませると一人前とみなされるようになった。年上の男の人を「アニー」と呼ぶ』（12B）。「年上の男の人」とは呼び手よりも年上の意味か一人前と言うにふさわしい年齢という意味か曖昧である。前者であるとすれば、実際の用例と矛盾する。敬意をもって呼びかけるという後者の意味なら納得できる。

なお、「アニー」は他家の家族構成員に対する言及形式として屋号と組み合わせて次のように用いられる。

リエンノアニー（利右衛門の家のアニー）

イチデーアニー（市左衛門アニー）

リキドーアニー（力蔵アニー）

⑩ 「成年女子」概念をあらわす形式

[ama^hni:]

〔補説〕『他家の女の人に呼びかける。自家の女の人には「ネーサン」と呼びかける』（1A）。

『嫁を呼ぶときに用いる。自分の娘は「アマニー」とは呼ばない』(10B)。

『よその家へ嫁して主婦になるべき人を呼ぶ。年下の女が年上の女を「アマニー」と呼ぶ』(12B)。用例からみて家族内では年下の女が年上の女を呼ぶというのは疑問。待遇品位が高いという意味なら納得できる。

⑪ 「兄」概念をあらわす形式

[on̩i:saŋ], [ɲi:saŋ], [on̩itʃaŋ], [ɲi:], [aŋiki], [aŋki], [aŋja]

〔補説〕 「ニー」は『若い男の意。通りすがりに会った若い男や親戚の若い男の人に対して呼びかける』(1A)。

「ニー」は『長男を呼ぶときに用いる。家によって長男の呼び方は違う』(12B)。

「アンキ」について、『最後に男の子ができたので大事にして「アンキ」と呼んだ。家族全員が「アンキ」と呼んでいた』(2B)。

『家族に男の兄弟が大勢いる場合は「名前+ノ+アンキ」という形式で呼ぶ』(15B)。

2男は長男を「ニーサン」と呼んでいる。『2男は学校に行ったので、「アンキ」とは呼ばなかった』。他の兄弟はすべて長男を「アンキ」と呼んでいる(4B')。

父が長男を、『長男は所帯をもっているので「アンキ」とも呼ぶ』。長男はその他「アニー」、「ットー」、「トーチャン」とも呼ばれている(17B)。

なお、「アンキ」は他家の家族構成員に対する言及および呼びかけ形式として屋号と組み合わせる。次のように用いられる。

言及形式

カクデーアンキ(角左衛門アンキ)

チョージュローアンキ(長十郎茂左衛門アンキ)

ヤシキノアンキ(屋敷のアンキ)

呼びかけ形式

オクチョーアンキラ(奥町アンキよ)

「アニキ」について、叔母がおい(長男)を『長男が小さい時は名前の呼びすて形式で呼んだが大きくなってからは「アニキ」と呼ぶようになった』(11B)。

『「アンキ」は甘ったれた感じがする。「アニキ」は偉い人』(3B)。

「アニキ」は他家の家族構成員に対する言及形式として屋号と組み合わせる。次のように用いられる。

サキアニキ(作右衛門アニキ)

⑫ 「姉」概念をあらわす形式

[on̩e:saŋ], [ne:saŋ], [on̩etʃaŋ], [nenne], [ama]

〔補説〕 「ネンネ」について、『若い娘の意』(1A)。

長女を、『他家の人が呼ぶときは「屋号+ノ+ネンネ」(ヒョーエモンノネンネ<兵右衛門の〜)という形式で呼ぶ』。家族内では年下の兄弟から「ネンネ」と呼ばれている(10A)。

2男, 5女, 3男が姉を、『呼び手が小さい頃は「ネンネ」と呼んでいたが、学校に通うようになってからは「ネーサン」と呼ぶようになった』(4B)。

5女, 3男が姉を、『呼び手が小さい頃は「ネンネ」と呼んでいたが、大きくなってからは「オ+名前」(オチョー)で呼ぶようになった』(4B)。

祖父が孫である長女を『小さい頃は「ネンネ」と呼んだ。下の兄弟と年が10歳離れているので。長女が15歳をすぎると「ネンネ」とは呼ばなくなる』(10B)。

「ネンネ」は言及形式として他家の家族構成員に対して屋号と組み合わせて用いられる。カクデーネンネ(角左衛門ネンネ)

「アマ」について、『姉という意。男の兄弟は自分の姉を「アマ」とは呼ばずに「ネーサン」と呼ぶ』(12B)。

⑬ 「叔父」概念をあらわす形式

[od̥ʒisaŋ] , [od̥ʒitʃaŋ] , [od̥ʒi:] , [ond̥ʒi:]

〔補説〕 「オジー」、「オンジー」について、『叔父を呼ぶときに用いる。また、島に流れていて、死んで若郷の寺に葬られている人のことも「オジー」とか「オンジー」と呼ぶ』(5B)。

⑭ 「叔母」概念をあらわす形式

[obasaŋ] , [obatʃaŋ] , [omb̥a:]

⑮ 「守子」概念をあらわす形式

[moi] , [mommo]

〔補説〕 2男が長女を「モイ」と呼んでいるのは『2男は長女にお守をしてもらった』(3B)から。

3女が長女を「モイ」と呼んでいるのは『3女は長女にお守をしてもらった』(9B)から。

長男がいとこを「モイ」と呼んでいるのは『長男はいとこにお守をしてもらった』から。長男の兄弟は、お守をされなかった兄弟もいとこにあたる3姉妹を「オ+名前(の略称)+モイ」(オントモイ<トリ, オトクモイ<トク, オツナモイ<ツナ)という「守子」概念を含む形式で呼んでいる。また、お守をしなかった長男の妹も年下の兄弟から同様の形式(マツンモイ<マツ)で呼ばれている(9B)。

長男が叔母を「モイ」と呼んでいる。『叔母は長男のお守をした』。長男の兄弟も叔母を「モイ」と呼んでいる。『3歳くらいまでの子供をお守する』慣習があった(11B)。

「モンモ」について、『子供がお守をしてくれた女の人に対して呼びかける言葉』(1A)。

『「モンモ」は新島本村から入った言葉であり、若郷ではもともと「モイ」と言った』(10B)。

長女を、他家の人が呼ぶときは「屋号+ノ+モンモ」(ヒョーエモンノモンモ<兵右衛門の〜)という形式で呼ぶ。家族内では年下の兄弟から「ネンネ」と呼ばれている(10A)。

(註1)

「父」概念をあらわす形式、などと表わす理由は イ. 家族内において同一人(被呼称者)が呼称者との関係によって「祖父」であったり「父」であったりすることのためと、ロ. 具体的形式としてはいろいろのものがあっても、それらは家族ごとの差異や年齢による差異であり、根幹的な意味は同一である場合それらをひとまとめにして示すためである。

なお、名前を用いた呼称形式には次のようなものがある。

イ. 名前の呼びすて

ロ. 名前の略称

ハ．接頭形式「オ」をつけたもの

ニ．接尾形式「サン」，「チャン」，「クン」，「ボー」，「コ」をつけたもの

ホ．「兄」・「姉」・「守子」概念をあらわす形式と名前を組み合わせたもの

〔補説〕 「名前の呼びすて形式」についての話者の説明は次のようである。2女が長女を名前の呼びすて形式で呼ぶことについて、『今は兄弟間で年がひとつ違っていても「ネンネ」と呼ぶが、昔のことでたったみつつしか年が違わなかったので「ネーサン」とも呼ばずに名前を呼びすてにした』（2B）。

父母が息子の嫁を『子どもができると名前を呼ばない。子供がすぐまねをするから』（2B）。

2男が2女を『年は2女の方が上（3歳違い）だけれども名前を呼びすてにした』（3B）。

4女が2女を『4女はおてんばだったので名前の呼びすて形式で呼んだ』。ただし、長女と兄に対しては「ネーサン」，「アニキ」，「アンキ」で呼びかけている（3B）。

祖父が祖母，息子の嫁を『頑固だったから家族の者を名前で呼んだ』（5B）。

4. 家族構成員に対する呼称

次に家族構成員が家族内において占める位置ごとに，それに対して用いられる呼称の種類と形式を，現在，過去それぞれを一共時態としてみていく。表1から8までを材料として記述をすすめる。

表 2 曾 祖 母 に 対 す る 呼 称

～が 家番号	曾祖父 (配偶者)	祖 父	祖母	父	母	叔父	叔母	長 男	長 女	2 女	その他・注
1 A	・	∧	∧	∧	<∧	・	<∧	・	インキョ パー	パ ー	
4 A	・	∨	∨	∨	∨	・	・	・	∨	・	
14A	・	◎ ∨	◎ ∨	◎ ∨	インキョノ オパーサン	・	・	インキョノ オパーサン	インキョノ オパーサン	・	
17A	・	◎	◎	◎	◎	インキ ョパー	・	・	◎	◎	
18A	◎	◎	◎	∨	∨	・	∨	インキョ パー	∨	・	長女の方が 年長
11B	×	◎	◎	◎	◎	・	◎	インキョ ンパー ◎	インキョ ンパー ◎	インキョ ンパー ◎	3女はイン キョンパー， ◎
16B	・	チョーデ ンパー ◎	◎	◎	◎	・	・	◎	◎	◎	2男～5男 ◎

表 2 の記号の説明

◎ ンパー ∨ オパーサン ∧ パーチャン
< オパーチャン ・ 該当者なし（以下同）

表 1

曾 祖 父 に 対 す る 呼 称

～が 家番号	曾祖母 (配偶者)	祖 父	祖 母	父	母	叔 母	長 男	長 女	注
18A	◎	◎	◎	∨	∨	∨	インキョ ジー	∨	長女の方が年長 曾祖父は叔母が6歳 のとき死去
11B	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	

表 1 の記号の説明

◎ インジー

∨ オジーサン

× 不明 (以下同)

表 3-A

祖 父 に 対 す る 呼 称 (現 在)

～が 家番号	曾 祖 母	祖 母 (配偶者)	父	母	叔父	叔母	長男	2男	長女	2女	そ の 他 ・ 注
1	トーチャン	◎ ∧	トーチャン	オトー サン ∧	.	オトー サン ∧	.	.	○	○	
2	.	∨	∨	∨	.	.	∨	∨	∨	.	
4	ットー	ットー	トーチャン オトーサン	オトー サン	∧	・ ∧	
5	.	∨	∨	∨	4女 ∨
7	.	∨	∨	∨	∨	∨	3女 ∨
8	.	∨	ットー	∨	.	.	∨	∨	.	.	大叔母・長男の嫁 ∨
9	.	∨	∨	∨	.	.	∨	∨	.	.	
10	.	∨	オヤジ ∨	∨	.	.	∨	.	∨	∨	
12	.	∨	オトーサン ∨	オトー サン ∨	∨	∨	
14	∨	∨	オトーサン ∨	オトー サン	.	.	∨	.	∨	.	
15	.	∧	∧	∧	オヤジ	.	∧	∧	∧	.	
16	.	<	オヤジ	オトー サン <	.	.	×	.	×	.	長男はまだ小さい(S. 48年生)ので呼ばない 長女は「バー」(幼児 語)
17	オトーサン ∥	ットー ジー ∧	∧	∧	トーチ ャン	.	.	.	∧	○	
18	トーチャン	∧	∧	∧	.	トーチ ャン	∧	.	∧	.	曾祖父「トーチャン」
19	.	∨	∨	∨	.	.	∨	.	∨	∨	

表 3-B

祖 父 に 対 す る 呼 称 (過 去)

～が 家番号	祖 母 (配偶者)	父	母	叔母	長男	2男	3男	長女	2女	3女	そ の 他 ・ 注
2	ジーサン	オトー サン	√	・	√	・	・	√	√	√	
3	◎	◎	◎	・	√	◎	◎	◎	◎	◎	長男の嫁・4女 ◎
1	√	√	√	・	√	・	・	・	√	√	養女 √, 父は婿に入りたての頃は 「オトツァン」
4	◎	◎	◎	・	◎	◎	◎	・	◎	◎	4・5女 ◎
5	ットー	◎	ットー ◎	・	◎ √	◎	・	◎	◎	・	
7	◎	◎	◎	・	◎	◎	◎	◎	◎	・	
9	・	◎	◎	◎	◎	×	・	◎	×	・	いとこ(女子3人) ◎ 2男・2女が生まれた頃祖父はすで に死去
10	√	√	◎ √	・	◎ √	◎ √	・	◎ √	・	・	
11	ットー	オヤジ ◎	◎	トッチ ヤン	◎	・	・	◎	◎	◎	曾祖母「ットー」
15	◎	◎	◎	・	◎	◎	・	◎	◎	◎	4女 ◎
16	◎	◎	◎	・	◎	◎	◎	◎	◎	・	曾祖母・4・5男 ◎
4'	◎	◎	◎	・	√	√	∧	◎	◎	◎	4男・4女 ∧
20	・	オヤジ	√	・	√	・	・	√	√	√	4・5女 √

表 3-A・Bの記号の説明

◎ インジー ○ ジー √ オジーサン
 ∧ ジーチャン < オジーチャン || 名前の略称

表 4-A

祖 母 に 対 す る 呼 称 (現 在)

～が 家番号	曾 祖 母	祖 父 (配偶者)	父	母	叔父	叔母	長男	2男	長女	2女	そ の 他 ・ 注
1	オカーサン カーチャン	ッカー ◎	カーチ チャン	オカー サン <	・	カーチ チャン ^	・	・	○	○	
2	・	▽	▽	▽	・	・	▽	▽	▽	・	
3	・	・	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	・	
4	ッカー	ッカー	カーチ チャン	オカー サン	・	・	・	・	^	×	2女はまだ小さい(S. 47年 生) ので呼ばない
5	・	▽	▽	▽	・	・	・	・	・	・	4女 ▽
6	・	・	▽	▽	・	・	▽	▽	▽	・	
7	・	▽	▽	▽	・	・	・	・	▽	▽	3女 ▽
8	・	▽	ッカー	▽	・	・	▽	▽	・	・	大叔母・長男の嫁 ▽
9	・	▽	▽	▽	・	・	▽	▽	・	・	
10	・	バーサン 	バーサン ▽	▽	・	・	< ^	・	< ▽	< ▽	
12	・	▽	オカー サン ▽	オカー サン ▽	・	・	・	・	▽	▽	
13	・	・	カーチ チャン	オカー サン	・	・	×	・	・	・	長男はまだ小さい(S. 48年 生) ので呼ばない
14	ッカー	▽	▽	カーチ チャン	・	・	▽	・	▽	・	
15	・	^	^	^	オフク ロ	・	^	^	^	・	
16	・	^	ッカー	オカー サン <	・	・	×	・	×	・	長男はまだ小さい(S. 48年 生) ので呼ばない、長女は 「バー」(幼児語)
17	オカーサン	○	○	○	オカー チャン	・	・	・	^	○	
18	カーチャン	^	^	^	・	カーチ チャン	^	・	^	・	曾祖父「カーチャン」
19	・	▽	▽	▽	・	・	▽	・	▽	▽	

表 4-B 祖母に対する呼称(過去)

～が 家番号	祖 父 (配偶者)	父	母	叔母	長男	2男	3男	長女	2女	3女	そ の 他・注
2	バーサン	∨	∨	・	∨	・	・	∨	∨	∨	
3	◎	◎	◎	・	∨	◎	◎	◎	◎	◎	長男の嫁・4女 ◎
1	バーサン	∨	∨	・	∨	・	・	・	∨	∨	養女 ∨, 父は婿に入りたての頃「オッカサン」母は小さいとき「ンマ」
4	◎	◎	◎	・	◎	◎	◎	・	◎	◎	4・5女 ◎
5		◎	◎	・	<	◎	・	◎	◎	・	
7	◎	◎	◎	・	◎	◎	◎	◎	◎	・	
8	・	◎	◎	・	・	・	・	◎	◎	◎	養女 ◎
10	バーサン	∨	∨	・	∨	∨	・	∨	・	・	
11	ッカー ◎	ッカー ◎	ッカー ◎	ンマ	オーヤン ンバー ◎	・	・	オーヤン ンバー ◎	オーヤン ンバー ◎	オーヤン ンバー ◎	曾祖母 ャカー
12	・	◎	◎	・	×	・	・	◎	◎	・	長男が生まれたとき祖母はすでに死去
15	◎	◎	◎	・	◎	◎	・	◎	◎	◎	4女 ◎
16	◎	◎	◎	・	◎	◎	◎	◎	◎	・	曾祖母・4・5男 ◎
4'	ッカー ◎	ッカー ◎	◎	・	∨	∨	∨ ◎	◎	∨ ◎	∨ ◎	4男・4女 ◎と∨ 2・3・4女は小さい頃◎, 大きくなって ∨

表 4-A・Bの記号の説明

◎ ンバー ○ バー ∨ オバーサン ∧ バーチャン
 < オバーチャン | 名前の呼びすて形式

表 5-A

父 に 対 す る 呼 称 (現 在)

～が 家番号	曾祖母	祖父	祖 母	母 (配偶者)	叔父	叔母	長男	2男	長女	2女	そ の 他 ・ 注
1	アンキ	アニー	アンキ アニー	∨ サン	・	アンヤ	・	・	∧	×	父はS.16年生まれ、2女はま のだ小さい(S.47年生まれ) で呼ばない
2	・	∧	∧	∧	・	・	∧	∧	∧	・	
3	・	・	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	・	叔父は長子、父は末子
4	パパ 		パパ 	パパ	・	・	・	・	パパ	×	2女はまだ小さい(S.47年生 まれ)ので呼ばない
5	・	∨	∨	∨	・	・	・	・	・	・	4女 ∨
6	・	・	∨	∨	・	・	∨	∨	∨	・	
7	・	◎	◎	◎	・	・	・	・	∨	∨	3女 ∨
8	・	◎	◎	◎	・	・	∧	∧	・	・	大叔母・長男の嫁 ◎
9	・	∨	∨	∨	・	・	∨	∨	・	・	
10	・	アニー	アニー	アニー	・	・	∧ ∨	・	∧ ∨	∧ ∨	
12	・		∨	∨	・	・	・	・	∨	∨	
13	・	・		クン	・	・	×	・	・	・	父はS.24年生まれ、長男はま だ小さい(S.48年生まれ) ので呼ばない
14	∧	∧	∧	∧	・	・	∧	・	∧	・	
15	・		∧	∧	アニキ	・	∨	∨	∨	・	
16	・	アニー ∧	チャン	チャン	・	・	×	・	パパ	・	父はS.17年生まれ、長男はま だ小さい(S.48年生まれ) ので呼ばない
17	×	アニー	<	<	アンチ チャン	・	・	・	<	×	曾祖母はもう年なので、2女 はまだ小さい(S.48年生ま れ)ので呼ばない
18	アニー	<	<	<	・	アータ	<	・	<	・	曾祖父「アニー」
19	・	アンキ	∧	∧	・	・	∧	・	∧	∧	
20	・	・	・	∨	・	・	・	・	∨	∨	

表 5-B

父 対 する 呼 称 (過 去)

～が 家番号	祖父	祖母	母 (配偶者)	叔母	長男	2男	3男	長女	2女	3女	そ の 他 ・ 注
2	△	△	△	・	△	・	・	△	△	△	
3	>	>	◎	・	>	>	>	>	>	>	長男の嫁・4女 >
1	×	◎	▽	・	×	・	・	・	>	>	祖父は他家の人と話すとき「オヤジサン」、長男は家の外で「オヤジ」と言及2・3女は小さいとき▽
4	◎	◎	◎	・	▽	△	△	・	△	△	長男は小さいとき△、学校に通うようになって▽、4・5女△
5	◎	◎	◎	・	▽ ◎	◎	・	◎	◎	・	
7	△	△	△	・	△	△	△	△	△	・	
8	・	△	◎	・	・	・	・	△	△	△	養女 △
9	△ ↑	・	アニー △	△ ↑	△	△	・	△	△	・	叔母は父より年長、いとこ(女子)3人は「カシヤ」・△、子は別の情報によると△、父は菓子屋をしていた
10	アニー	アニー	アニー	・	▽	▽	・	▽	・	・	
11	アニキ	アニキ	アニー ◎	アニキ	△	・	・	△	△	△	曾祖母「アニキ」
12	・	◎	◎	・	△	・	・	△	△	・	
15	◎	◎	×	・	△	△	・	△	△	△	4女 △
16	◎	◎	◎	・	△	△	△	△	△	・	曾祖母・4・5男 △
4'	◎	◎	▽	・	▽	▽	△ ▽△	△ ▽△	△ ▽△	△ ▽△	3男・長女・2・3女は小さい頃△・△、大きくなって▽、4男・4女は△・△
17	・	・	◎	・	△	△	△	△	△	△	
20	◎	・	◎	・	▽	・	・	▽	▽	▽	4・5女 ▽

表 5-A・Bの記号の説明

◎ ッター ▽ オターサン
> オトツツァン △ トツチャン

△ トーチャン
| 名前

< オトターチャン
|| 名前の略称

表 6-A

母 に 対 す る 呼 称 (現 在)

家番号	～が 曾祖母	祖 父	祖 母	父 (配偶者)	叔父	叔母	長男	2男	長女	2女	そ の 他 ・ 注
1	ネー サン	ネー サン	ネー サン	┃	・	オネー サン	・	・	V Λ	×	2女はまだ小さい(S.47年生 まれ) ので呼ばない
2	・	Λ ┃	Λ	Λ	・	・	Λ	Λ	Λ	・	
3	・	・	Λ ┃	┃	┃	┃	Λ	Λ	Λ	・	叔父・叔母は年長
4	ママ ┃, ┃	┃	ママ ┃	┃	・	・	・	・	ママ	×	2女はまだ小さい(S.47年 生まれ) ので呼ばない
5	・	V	V ┃	×	・	・	・	・	・	・	4女 V
6	・	・	V	V	・	・	V	V	V	・	
7	・	◎	◎	◎	・	・	・	・	V	V	3女 V
8	・	◎	◎	◎	・	・	Λ	V	・	・	大叔母・長男の嫁 ◎
9	・	V	V	V	・	・	V	V	・	・	
10	・	Λ	Λ	Λ	・	・	Λ	・	Λ	V Λ	
12	・	(┃)	V	(┃)	・	・	・	・	V	V	(┃)は仮名
13	・	・	┃	┃	・	・	×	・	・	・	長男はまだ小さい(S.48年生 まれ) ので呼ばない
14	┃	┃	┃, ┃	┃	・	・	Λ	・	Λ	・	
15	・	┃	V	Λ	ネー サン	・	V	V	V	・	
16	・	┃	┃	┃チャン	・	・	×	・	マーマ	・	祖父は「チャーチャン」(幼 児語) で呼ぶこともある, 長 男はまだ小さい(S.48年生ま れ) ので呼ばない
17	×	┃	<	┃	┃ネン ネ	・	・	・	<	×	2女はまだ小さい(S.48年生 まれ) ので呼ばない
18	アマ ニー	<	<	┃	・	ネー サン	<	・	<	・	曾祖父「アマニー」
19	・	┃	V ┃	V	・	・	V	・	V	V	
20	・	・	・	V	・	・	・	・	V	V	

表 6-B

母 に 対 す る 呼 称 (過 去)

～が 家番号	祖 父	祖 母	父 (配偶者)	叔母	長男	2男	3男	長女	2女	3女	そ の 他・注
2	◎	◎	◎	・	∧	∧	・	∧	∧	∧	
3	>	>	> 	・	>	>	>	>	>	>	長男の嫁・4女 >
1				・	オッカ サン	・	・	・	オッカ サン	オッカ サン チーチ	養女「オッカサン」
4	◎	◎	◎	・	∇ △	△	△	・	△	△	長男は小さいとき△, 大き くなってから∇, 4・5女 △
5		◎	×	・	∇ ◎	◎	・	◎	◎	・	
7				・	△	△	△	△	△	・	
8	・		◎	・	・	・	・	△	△	△	養女 △
9		・			△	△	・	△	△	・	いとこ(女子)3人は ン モイ 別の情報では子は∧
10	アマニー 	アマニー	◎ 	・	◎	◎	・	◎	・	・	
11				アマ	△	・	・	△	△	△	曾祖母
12	・	◎	◎ 	・	△	・	・	△	△	・	
15			∧	・	∧	∧	・	△	△	△	4女 ∧, 父は若いうち
16	◎	◎		・	△	△	△	∧	∧	・	曾祖母 △, 4・5男 ∧
4'	◎	◎	◎	・	∇	∇	∇ △	∇ △	∇ △	∇ △	3男・長女・2・3女は小 さい頃△, 大きくなってか ら∇, 4男・4女は△・∇
17	・	・	◎	・	<	<	<	< △	<	<	長女は小さい頃△, 大き くなって<
20	◎	・	◎	・	∧	・	・	∧	∧	∧	4・5女 ∧

表 6-A・Bの記号の説明

◎ ッカー ∇ オカーサン ∧ カーチャン < オカーチャン
 > オッカー △ ンマ | 名前の呼びすて形式
 || 名前の略称(オ+名前・略称など)

表 7-A

長 男 に 対 す る 呼 称 (現 在)

～が 家番号	曾祖母	祖 父	祖 母	父	母	叔父	叔 母	姉	2 男	妹	そ の 他 ・ 注
2	・		ニ一			・	・		ニ一	・	
3	・	・						・	△	△	
6	・	・	ニ一			・	・	・			
8	・					・	・	・	ニ一サン	・	長男の嫁 大叔母
9	・	V	V			・	・	・	V	・	
10	・					・	・		・		
13	・	・				・	・	・	・	・	
14						・	・	・	・	∧	曾祖母
15	・			∧ 	∧ 		・	・	∧	∧	
16	・	チャン 	チャン 		チャン	・	・	×	・	・	姉はまだ小さい (S.46年生まれ) ので呼ばない, 父は チャンとも言うかも知れない
18	チャン	チャン	チャン		チャン	・	チャン	チャン	・	・	曾祖父母 チャン
19	・					・	・		・	V	

表 7-B

長男に対する呼称(過去)

～が 家番号	祖父	祖母	父	母	叔母	姉	2男	3男	妹	そ の 他・注
2	△	△	△	△	・	△	・	・	△	
3	▲	アニー △	アニー	アニー	・	・	▲	▲	▲	長男の嫁「アニー」, 父は子供のとき名前の呼びすて形式で呼んだ
1		▲	アニー	アニー	・	・	・	・	▲	
4					・	・	△	△	△	
5	▲	▲	アニー ▲	アニー	・	・	△	・	△	父は小さい頃「アニー」, 大きくなって▲
7					・		∨	∨	∨	
9		・				・	△	・	△	年上のいとこ(女子)3人
10					・	・	△	・	・	
11	△	△		△		・	・	・	△	曾祖母△, 叔母は, 長男が大きくなってから△
12	・	×			・		・	・	・	祖母は長男が生まれたときすでに死去
15					・		△	・	△	
16	△ 	△		△	・	・	△	△	△	曾祖母・4・5男 △
4'	△ ,	△ ,	 	 	・	・	∨	△	△	4男△
17	・	・			・		△	△	△	
20		・			・		・	・	・	

表 7-A・Bの記号の説明

∨ オニーサン

^ オニーチャン

△ アンキ

▲ アニキ

| 名前の呼びすて形式

|| 名前の略称

表 8-A

長 女 に 対 す る 呼 称 (現 在)

～が 家番号	祖 父	祖 母	父	母	叔父	叔 母	兄	2女	弟	そ の 他 ・ 注
1		△ ,	△ 	△ 	・		・	△	・	曾祖母△, チャン
2		△			・	・	・	・	ネンネ	
3	・							・	△	
4	チャン 	チャン	チャン 	チャン	・	・	・	×	・	曾祖母 チャン, 2女は まだ小さい(S.47年生ま れ) ので呼ばない。
5			×	×	・	・	・	・	・	未調査, 4女V
7					・	・	・	△	・	3女△,
10					・	・	・	△	△	
12	 	 	 	 	・	・	・	< △	・	
14					・	・		・	・	曾祖母
15						・		・	△	
16	チャン 	チャン 	チャン 	チャン 	・	・	・	・	×	弟はまだ小さい(S.48年 生まれ) ので呼ばない
17						・	・	・	×	弟はまだ小さい(S.48年 生まれ) ので呼ばない
18	チャン	チャン	チャン	チャン	・	チャン	・	・	△	曾祖父母
19					・	・	・	<	×	弟は特にきまった呼称形 式をもたない
20	・	・	チャン 	チャン	・	・	・	△	・	

表 8-B

長 女 に 対 す る 呼 称 (過 去)

家番号	祖父	祖母	父	母	叔母	兄	2 女	3 女	弟	そ の 他・注
2					・	・		V	モイ	
3					・		V	V	注	兄の嫁 , 弟のうち2男は「モイ」, 4男はV, 4女はV
5		△ 			・		V	・	V	
7	アマ				・	・	V	・	V	
8	・				・	・			・	年上の養女
9		・					ンモイ	・	ンモイ	年上のいとこ(女子)3人
10					・	・	・	・	V	
11							△	△	・	曾祖母
12	・				・	・	アマ	・	V	
15					・	・	ノアマ	ノアマ	ノアマ	4女 ノアマ
16					・			・		曾祖母はもう年をとったのではっきり 呼ばない
4'					・		< 		ノネー サン	2女は小さいとき , 大きくなって<, 4女は小さいとき , 大きくなって△・ ノネーサン
17	・	・			・	・	アマ V	V	注	弟のうち長男は「アマ」, 2・3男は V, 長男は調査時「ネーサン」であっ た
20		・			・	・	△	△	△	4・5女 △

表 8-A・Bの記号の説明

V ネーサン < オネーサン △ ネンネ | 名前の呼びすて形式
 || 名前の略称(略称, オ+名前, 名前+コなど)

4. 1. 曾 祖 父

現在の祖父に対する呼称は「祖父」概念をあらわす「インジー」, 「オジーサン」である。「インジー」は曾祖母, 祖父, 祖母によって用いられ, 「オジーサン」は父, 母, 叔母, 子によって用いられている。親族名称としての曾祖父と祖父は区別があるが, 呼称としては, 現実には両者が共存する機会が少ないためか, 安定した識別形式をもたない。特に区別をする場合には「インキョジー」のような形式を用いる。

過去における呼称は, 家族内のすべてが「祖父」概念をあらわす形式「インジー」であった。

4. 2. 曾 祖 母

現在の曾祖母に対する呼称は「祖母」概念をあらわす形式「オーバーサン, バーチャン, ンバー」が主である。「ンバー」は老年層, 特に祖父, 祖母の世代でよく用いられている。母, 叔父, 子からは祖母と区別するための「インキョバー, インキョノオーバーサン」という呼称形式が用いられている。

過去における呼称はほとんど「祖母」概念をあらわす形式「ンバー」であった。祖母と区別するための形式としては「インキョンバー」, 「チョーデンバー」があった。

4. 3. 祖 父

祖父に対する呼称には「祖父」概念をあらわす形式とそれよりひとつ前の世代である「戸主世代」概念, 「父」概念をあらわす形式がある。「戸主世代」・「父」概念をあらわす形式で呼ばれる祖父は,

イ. 曾祖父・曾祖母がいる(1A, 4A, 14A, 17A, 18A, 11B)。

ロ. 孫がまだ年少である(1AではS.46と47年生まれの孫がいる, 4AではS.43と47年生まれ, 18AではS.44と47年生まれ)。

ハ. 未婚の子(表では叔父・叔母にあたる)がある(1A, 18A, 11B)。

という条件がひとつあるいはそれ以上重なっている家族の祖父である場合が多い。また, 祖父ではあってもまだ隠居していない(12A)など家族内の社会経済的事情もある。これらは孫が生まれるということがすぐに呼称の変化をもたらすものではなく, 父の世代から祖父の世代への過渡的時期があることを示している。このような時期では孫がいるかそうでないかという場面による使いわけもおこなわれる(「場面による使いわけ」の項参照)。

現在の「祖父」概念をあらわす形式は「オジーサン, ジーチャン」が主である。

過去における「祖父」概念をあらわす形式では「インジー」が優勢であった。「オジーサン」もすべての世代にわたって半数以上の家族で用いられている。

4. 4. 祖 母

祖母に対する呼称にも「祖母」概念をあらわす形式と「主婦世代」, 「母」概念をあらわす形式の3者がある。使いわけの条件も祖父の場合と同様である。

現在の「祖母」概念をあらわす形式には「オーバーサン, バーチャン」が多く用いられる。「ンバー」と「バー」は祖父, 父母, 子の各世代にわたってそれぞれ2家族に用例がみられる。

過去における「祖母」概念をあらわす形式では「ンバー」が優勢であった（曾祖母と呼びわける場合には「オーヤンバー」も用いられた）。「オーバーサン」も父母、子の各世代にわたって5家族に用例がみられる。

4. 5. 父

父に対する呼称は「戸主世代」概念をあらわす形式、「父」概念をあらわす形式、「成年男子」概念をあらわす形式、「兄」概念をあらわす形式の4種にわけられる。

ここで「父」概念と「戸主世代」概念とがわかれる根拠を示す。

祖父、祖母および配偶者が父に対する呼称形式は「ッター」、子が父に対する呼称形式は「トッチャン」であり、両者は区別されている（ただし5Bは例外）。特に過去における呼称の実態（4B・16Bなど）では分布がはっきりしている。祖父、祖母、配偶者からは「トッチャン・トーチャン」など子から父に対する呼称形式も用いられているが、これは子の立場に立った用い方である。一方子が父を「戸主世代」に対して用いる「ッター」という形式で呼ぶことはない。

以上は、家族内における呼称者の分布により「父」概念と「戸主世代」概念とが区別されていることを示したのであるが、次に若郷村落の構成員に対する世代＝年齢階層（呼称）を取りあげ、それとの関連をみる。資料1によれば世代呼称は次のようである。

表 9-1

男	性
隠居したもの	イ ン ギ イ
親が隠居して戸主となったもの	ト オ
若者入り（15才）から戸主になるまでのもの	ア ニ イ
7才から若者入りまで	ア ン キ
ハカセサマをまつらなくなるまで（7才まで）	ニ ュ ウ
	ア カ ン ゴ

（資料1 P.625～628）

我々の調査では世代＝年齢を区別するための条件は違っていたが呼称形式についてはほぼ同じ結果を得た（表9-2）。

表 9-2

男	性
孫ができた	インジー・オジーサン
子供が幼児期以後	ッター・オートーサン
婚約する頃から結婚して子供がないか、あっても乳児期まで	ア ニ ー
結 婚 前	ア ン キ
中 学 生 ま で	（ニ ー）

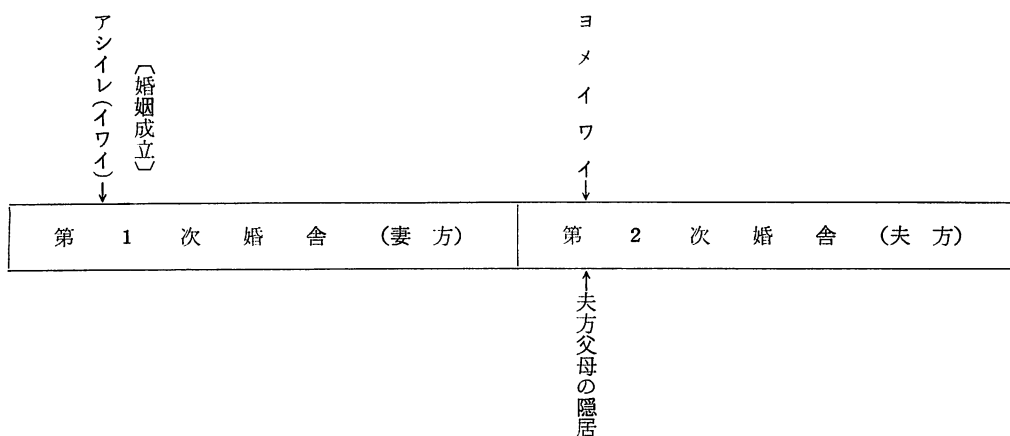
（注）「ニー」は最近あまり使われなくなった。

我々の調査時には若者組などの組織が解体し、隠居慣行もゆるやかになってきていたため呼称形式に関する条件は資料1とは異なっているが両者をあわせみることによって若郷における世代＝年齢階層を把握することができるであろう。村落の構成員に対する呼称形式の中で父の世代に「ットー」はでてくるが「トッチャン」はみあたらない。そこで前者は、村落の構成員に対する世代呼称として「戸主世代」概念をあらわす形式であり、後者はそれとは別の呼称、家族の構成員の中で子と血縁関係をもつ「父」概念をあらわす形式であるとすべきである。ただし、現在では「戸主世代」に対する呼称形式として「オトーサン」（村会議員や郵便局長などの職にある者に対して用いられる）もあらわれ（これは子の父に対する呼称形式と一致する）、「ットー」の衰退、「トッチャン」の滅亡などとともに形式上の「戸主時代」概念と「父」概念との区別は曖昧化してきている。

第3に、若郷における隠居慣行、婚姻形態からも血縁関係をあらわす「父」の概念と村落内で戸主として社会的に認められた者の概念との区別を認めることができる。若郷以外の地域社会では、例えば、父をあらわす形式が壮年期の男子を指し示すようになり、親族語彙から年齢階梯への移行がみだせるが、若郷においても同様の現象がみられる。ただし、若郷のように小規模の村落においては、ある人が結婚しているか否か、子供があるか否か、隠居しているか否かなどについておたがいに知りつくしているのだから確実に世代＝年齢呼称がわりあてられる（40歳を過ぎててもまだ結婚していない男女は「ットー」、「ッカー」とは呼ばれない）。

若郷での隠居はある家族の特定の状況の発生から自然発生するものではなく、村落社会における慣行として伝承されている。若郷ではあちこちの家に隠居屋という別棟の隠居所がオーヤ（母屋）の他にあり、夫婦の居住場所と夫方の父母の隠居とが密接な関係をもっている。一時代前の両者の関係は下図のようであった。

図1



アシイレによる婚姻成立祝を終えると夫は妻方婚舎に通うネドガエリをおこなう。何年かしてからヨメイワイをおこなうとはじめて夫婦は夫方婚舎に引き移ることができる。その時期は夫方の両親が隠居する時期にあわせられており、すでに子供が何人かできている場合もある。こうして家族内において戸主権の交替がおこなわれるが、それは同時に村落社会の生活においても戸主世代としての地位をあたえられることになりそれにふさわしい呼称形式で呼ばれるようになるのである。この呼称形式の交替は他家の男子に対しても自家の男子に対してもおこな

われる。他家の戸主世代をそれにふさわしく遇すると同時に、自家の者に対しても同様に戸主権を譲り渡したということをあらわすために戸主世代にふさわしい遇し方をしなければならない。隠居した祖母などは「オイゲノットー（私の家のットー）」などと表現する。それがそのまま家族内にもちこまれ、呼称として用いられるのである。一方、子どもたちの父親へのかかわり方は血縁的に結ばれた親へのものであり「トッチャン」という呼称形式はそれにふさわしい遇し方をあらわすものである。

「成年男子」概念をあらわす「アニー」は話者の説明によると、だいたい結婚直前から子供が2人できる頃までであるという。資料でも、

イ、表7-B 9家のようにまだ結婚していない長男の場合

ロ、表7-B 3家のように長男が結婚していてもまだ子供が生まれていない場合

ハ、表5-A 16家（2歳と1歳未満）のように子どもがまだ小さい場合（表5-A 1家では2歳と1歳、表5-A 17家では3歳と1歳未満、表5-A 18家では4歳と1歳）

家族内において父（または長男）の位置を占める者が「アニー」と呼ばれている。その他、子どもが大きくなっていても習慣的に、「アニー」と呼ばれている家（表5-A 10家）もある。また表5-A 14家のように少し前までは「アニー」と呼ばれていたが現在では「トーチャン」と「父」概念をあらわす形式で呼ばれているという例（子供はすでに大きくなっている）もある。これらは「アニー」の使用範囲について話者が内省しておこなった報告を裏づけるものである。「アニー」という形式で父（または長男）に呼びかけるのは曾祖父母、祖父、祖母および配偶者（長男に対しては父も）であり、子（または弟妹）からこの形式を使って呼びかけることはない。このような呼称者の分布も「アニー」という形式が「ットー」と同様、「アニー」と遇されるべき社会的条件をそなえた者に対し村落という社会的単位における生活で用いられる呼称が家族内にとりこまれ用いられているということを示すものである。

現在の「父」概念をあらわす形式は「オトーサン、トーチャン」が主である。「戸主世代」概念をあらわす形式「ットー」は勢力は弱いが曾祖母、祖父母、配偶者によって用いられており、中でも祖父は祖母、配偶者よりもよく用いている。

過去においては祖父、祖母、配偶者が父に対する呼称は「戸主世代」概念をあらわす形式「ットー」が主である。子が父に対する呼称形式は「父」概念をあらわす形式「トッチャン」が優勢である。祖父、祖母、配偶者が父に対する呼称として「父」概念をあらわす形式つまり子の立場に立った呼称形式をとる場合は「トッチャン」がよく用いられている。

4. 6. 母

母に対する呼称は「主婦世代」概念をあらわす形式、「母」概念をあらわす形式、「成年女子」概念をあらわす形式、「姉」概念をあらわす形式の4種にわけられる。

祖父、祖母、配偶者が母に対する呼称形式「ッカー」は「主婦世代」概念をあらわし、子が母に対する呼称形式「ンマ、カーチャン、オカーサン」などは「母」概念をあらわしている。「主婦世代」概念と「母」概念とを区別する根拠や「成年女子」概念をあらわす形式で呼ばれる対象などは男子の場合とほぼ同様である。参考として女性の世代＝年齢階層（呼称）をあげておく。

表 10-1

女	性
隠居したもの	ウ ン バ ー
親が隠居して主婦になったもの	カ ア
モリを終えた娘及び嫁であるもの	ア マ ニ イ
モリをしているもの又はモリすべき年令とされているもの (7才~14才)	モ イ
モリされているもの(3才まで)	モ ン モ
	(ア カ ン ゴ)

(資料1 P.628~634)

表 10-2

孫ができた	ン バ ー (オバーサン)
子供が幼児期以後	ッ カ ー (オカーサン)
婚約する頃から結婚して子供がないか、あっても乳児期まで	(ア マ ニ ー)
結 婚 前	ネ ン ネ

(注) () 内の形式はあまり用いられない。

(昭和48年調査)

現在の「母」概念をあらわす形式は「オカーサン、カーチャン」が主である。祖父、祖母、配偶者からは名前の呼びすて形式がもっとも多い。ついで「オカーサン、カーチャン」という子の場に立った呼称形式がよく用いられている。「主婦世代」概念をあらわす形式「ッカー」が祖父、祖母、父によって用いられている家族も2例ある。

過去においては祖父、祖母、配偶者が母に対する呼称は「主婦世代」概念をあらわす形式「ッカー」が半数以上の家族で、また、名前の呼びすて形式、名前に接頭形式「オ」をつけたものも多い。子が母に対する呼称は「母」概念をあらわす形式「ンマ、カーチャン」が優勢である。

4. 7. 長 男

現在の長男に対する呼称は、年長者である祖父、祖母、父、母、姉からは名前の呼びすて形式、名前の略称(+接尾形式)が主である。年下である弟、妹からは「兄」概念をあらわす形式「ニー、アンキ、オニーサン、オニーチャン」などが用いられている。

過去における呼称は名前、「兄」概念、「成年男子」概念をあらわす形式の3種にわけられる。「成年男子」概念をあらわす形式を使って呼びかける者は嫁(長男の配偶者にあたる)以上の世代であり、それによって呼ばれる者は長男でしかも嫁がある場合(3B家)または成人に達している場合(1B家、5B家)の3家族においてである。祖父、祖母、父、母、姉からは名前の呼びすて形式が多い。また、名前の略称による呼びかけもよくおこなわれている。

「兄」概念をあらわす形式では「アンキ」がよく用いられている。「アニキ」は祖母、弟、妹から用いられている例が3家族にある。「アニキ」は「アンキ」よりも待遇品位が高い(補説参照)。

4. 8. 長女

現在の長女に対する呼称は、年長者である祖父、祖母、父、母、兄などからは呼びすて形式および名前の略称(+接尾形式)が主である。年下の兄弟の立場に立った呼称では「姉」概念をあらわす形式「ネンネ」が2家族で用いられている。年下である弟、妹からは「姉」概念をあらわす形式「ネンネ」が優勢である。その他「オネーサン」が2女により2家族で用いられている。

過去における呼称は名前、「姉」概念、「守子」概念をあらわす形式の3種にわけられる。「守子」概念は守をされる者と子守をする者との間になり立つ関係をあらわす概念であり、これをあらわす形式を用いて呼ぶのは子守をされた(あるいはされるべき立場にある)弟、妹である。年長者である祖父、祖母、父、母、兄からの呼称は名前の呼びすて形式または名前に接頭形式「オ」をつけたものがほとんどである。年下である弟、妹からの呼称は「姉」概念をあらわす形式「ネーサン、ネンネ、アマ」が大半を占めている。2女以下や弟からでも名前の呼びすて形式が用いられていることは現在にはないことである。

「守子」概念をあらわす形式「モイ」は、単独で、または「名前+の+モイ」という形式で用いられている。

〔補説〕 守子;かつては女子が7歳から15歳の間は子守をする慣習があった。守子は長女であるとも家族内の者であるとも限らない。むしろ他家の女子であることが本来の姿であった。守子と子守をされる子との結びつきは深く、次のような守子の家族に対する呼称形式があった。

「モイットー」(守子の父)

「モイッカー」(守子の母)

「モインジー」(守子の祖父)

「モインバー」(守子の祖母)

「モイアンキ」(守子の兄)

なお守子と子守をされた子との人間関係についての詳しい説明は資料1参照。

4. 9. 2 男

2男に対する呼称は現在、過去とも名前(呼びすて、略称、接尾形式「チャン、ボー」をつけたもの)がほとんどである。「兄」概念をあらわす形式は過去において弟と妹がそれぞれ一家族ずつで用いているにすぎない(「アンキ、ニーサン」)。長男に対しては目上の祖父、祖母、父、母などが「兄」概念をあらわす形式で呼ぶこともあるが、2男に対して目上のものが「兄」概念をあらわす形式で呼ぶことはない。3男以下の場合も2男と同様であり、長男と2男以下の異なる点である。

4. 10. 2 女

2女に対する呼称は現在、過去とも名前(呼びすて、略称、接頭形式「オ」、接尾形式「チャン」をつけたもの)がほとんどである。長女に対しては目上の者が「姉」概念をあらわす形式で呼ぶこともあるが2女に対して目上の者が「姉」概念をあらわす(ふくむ)形式で呼ぶことはない。3女以下の場合も2女と同様であり、長女と2女以下の異なる点である。

4. 11. 子

ここで子に対する呼称を数家族の例をとって示す。子に対する呼称は次のふたつの型に分類できる。

イ. 長子尊重型

長男、長女に対する呼称は年長者は名前、年下の兄弟は「兄」、「姉」概念をあらわす形式で呼び長男、長女に対する呼称が年長者と年下の兄弟とでわかれている。2男、2女以下に対する呼称は年長者も年下の兄弟も名前（呼びすて、略称、接尾形式をつけた形）で呼び、わかれていない。つまりこの型の家族では2男、2女以下であれば年長者はもちろん年下の兄弟でも名前で呼ぶことができる。

長男は嫁をもらい、長女は婿をとって家を継ぐ可能性が大きい2男、2女以下にはその可能性が少ない、などの理由で長男、長女は尊重され、2男2女以下と区別される。それが呼称の上に反映したものであろう。次の例では長男と2男以下とで「兄」概念をあらわす形式で呼ぶか名前の呼びすて形式で呼ぶかがわかれている。

表 11 子 に 対 す る 呼 称 (16B家)

～を ～が	長男 正次郎	2男 竹蔵	3男 義男	4男 長之助	長女 ソメ	2女 房枝	5男 茂
曾祖母	アンキ	タケ	ヨシオ	×	×	×	×
祖父	アンキ ショージロー	〃	〃	チョーノ	ソメ	フサ	シゲ
祖母	アンキ	〃	〃	〃	〃	〃	〃
父	ショージロー	〃	〃	〃	〃	〃	〃
母	アンキ	〃	〃	〃	〃	〃	〃
長男	／	〃	〃	〃	〃	〃	〃
2男	〃	／	〃	〃	〃	〃	〃
3男	〃	〃	／	〃	〃	〃	〃
4男	〃	〃	〃	／	〃	〃	〃
長女	〃	〃	〃	〃	／	〃	〃
2女	〃	〃	〃	〃	〃	／	〃
5男	〃	〃	〃	〃	〃	〃	／

次の例では、長女は「姉」概念をあらわす形式で呼ばれているが2女は名前の呼びすて形式である（表12）。

表 12 子に対する呼称(12B家)

～を ～が	長女 ツル	2女 マツ	長男 恒良
祖母	ツルコ	マツ	×
父	〃	〃	ツネヨシ
母	〃	〃	〃
長女	＼	〃	〃
2女	アマ	＼	〃
長男	ネーサン	〃	＼

表 13 子に対する呼称(5B家)

～を ～が	長男 友吉	長女 テウ	2女 タン	2男 シンタロー
祖父	アニキ	オチョー	オタン	シンタロー
祖母	〃	オチョー ネンネ	オタン ネ	〃
父	アニー アニキ	オチョー	オタン	〃
母	アニー	〃	〃	〃
長男	＼	〃	〃	〃
長女	アンキ	＼	〃	〃
2女	〃	ネーサン	＼	〃
2男	〃	〃	ネンネ	＼

表 14 子に対する呼称(3B家)

～を ～が	長男 庄吉	嫁 てう	長女 タン	2女 フク	2男 長之助	3女 イシ	4女 スギ	3男 定義
祖父	アニキ	オチョー	オタン	フク	チョーノ	オイシ	オスギ	サダヨシ
祖母	アンキ アニー	アマニー	〃	〃	〃	〃	オース	サーダ
父	アニー ショーキチ	オチョー	〃	〃	〃	〃	〃	〃
母	アニー	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
長男	＼	〃	〃	〃	〃	〃	〃	サダーヨ
嫁	〃	＼	〃	〃	〃	〃	〃	〃
長女	〃	〃	＼	〃	〃	〃	〃	〃
2女	〃	アマニー	ネーサン	＼	〃	〃	〃	〃
2男	〃	ネーサン	モイ	〃	＼	〃	〃	〃
3女	〃	アマニー	ネーサン	(チーセー) ネーサン	〃	＼	〃	〃
4女	〃	〃	〃	フーク	アンキ	〃	＼	〃
3男	〃	ネーサン	〃	ネンネ	〃	ネンネ	〃	＼

ロ. 上下分割型

長男、長女に対する呼称は長子尊重型の場合と同じく、年下の兄弟は2男、2女以下に対しても（名前＋）「兄」・「姉」概念をあらわす形式で呼びかけ名前だけで呼ぶことはない。これは目上・目下分割線によって親族名称を使って呼びかけるか、名前を使って呼びかけるかが分かれる日本語の呼称の一般原則にのっとったものである（表13）。
(注1)(注2)

ハ. 中間型

上記イ、ロの中間の型で、この型の特徴は年下の兄弟でも近い年上の兄弟ならば名前で呼んでいるということである。次の例ではそれぞれ年下の兄弟が年上の兄弟を名前で呼んでいる（ただし、4女が2女を名前で呼んでいることについては「おてんばだったから」という話者の説明があった）（表14）。

4. 12. 叔父・叔母・大叔母・

叔父・叔母・大叔母に対する呼称形式は次表の通りである。

表 15 叔父に対する呼称

家 番号	呼称形式	生年	同居 別居	既婚 未婚	～ が
3 A	ジーチャン	T. 6	同	既	兄弟の長男・長女・ 2男
15A	オジサン	?	同	未	兄弟の長男・長女・ 2男
17A	オジチャン	S. 32	同	未	兄弟の 長女

表 16 叔母・大叔母に対する呼称

家 番号	呼 称 形 式	生年	同居 別居	既婚 未婚	～ が
1 A	オバチャン	S. 26	同	未	兄弟の長女（小さい頃は「ネンネ」）
	ネンネ				兄弟の2女
3 A	バーチャン	T. 10	同	既	兄弟の長男・長女・ 2女
4 A	オバサン シタヤノオバサン	?	別	?	兄弟の長女
8 A	名前の呼びすて	T. 3	同	未	兄弟の長男・長男の 嫁
8 A	(大叔母を) 名前の呼びすて	T. 3	同	未	兄弟の孫（長男・ 長男の嫁・2男）
18A	オバチャン	S. 27	同	未	兄弟の長男・長女
9 B	オンバー	M. 14 以前	同	未	兄弟の長男・長女・ 2男・2女・めい
11B	モイ	M. 36	同	未	兄弟の長男・長女・ 2女・3女

(注) 4 Aの叔母は上野の下谷に住んでいる。9 Bの「めい」は、別の兄弟の長女・2女・3女。

叔父・叔母に対する呼称は「叔父・叔母」概念をあらわす形式、「祖父・祖母」概念をあらわす形式、「姉」概念をあらわす形式、「守子」概念をあらわす形式および名前の呼びすて形式ある。

「叔父・叔母」概念をあらわす形式には「オジサン」、「オジチャン」、「オンバー」、「オバサン」、「オバチャン」があり、同居していない場合は居住地名を冠して呼んでいる。

血縁関係は叔父・叔母であっても相当の年である場合「祖父・祖母」概念をあらわす形式で呼ばれる。3 Aでは叔父が長子、父が末子であり、叔父・叔母はそれぞれ大正6年、大正10年

の生まれであるから「祖父・祖母」概念をあらわす形式「ジーチャン」，「バーチャン」で呼ばれている。

相当年長であってしかも未婚の叔母の場合，叔母の兄弟が名前の呼びすて形式で呼んでいるのに合わせておい・めいも名前の呼びすて形式で呼ぶことがある。また，同じ条件の大叔母の場合も同様の形式で呼ぶことがある。

叔母がおいの子守をしている場合，おいとその兄弟は叔母を「守子」概念をあらわす形式「モイ」で呼ぶ。

（注1）鈴木孝夫，『ことばと文化』，1973，6章「人を表わすことば」参照

（注2）渡辺友左，「福島北部方言の親族語と形容詞の語彙体系」（国立国語研究所論集3），1967参照